

報道各位

ジャック・カロ リアリズムと奇想の劇場

非日常からの呼び声 平野啓一郎が選ぶ西洋美術の名品

国立西洋美術館
読売新聞社

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

平素より、当館の活動と運営にご理解、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、このたび国立西洋美術館と読売新聞社は、2014年4月8日(火)から6月15日(日)まで、国立西洋美術館企画展示館において『ジャック・カロ―リアリズムと奇想の劇場』、『非日常からの呼び声 平野啓一郎が選ぶ西洋美術の名品』を同時開催いたします。

つきましては、展覧会プレスリリース、作品写真資料をお送りしますので、ご高覧の上、当館広報にご協力いただければ幸いです。

ジャック・カロ―リアリズムと奇想の劇場

ジャック・カロ(1592年-1635年)は、17世紀のロレーヌ地方が生んだ西洋美術史を代表する版画家のひとりです。今日では、デューラーやレンブラントほどの知名度はないかもしれませんが、存命中には、トスカーナ大公のコジモ2世・デ・メディチをはじめ、ロレーヌのみならず周辺諸国の貴顕たちからも庇護を受けるなど、高い名声を博しました。わずか40年あまりの短い生涯の間に残した作品の数は1400点を超えます。それらの作品は、主題の多彩さ、想像力豊かでユニークな表現、さらに技法の革新性によっても、カロの名を版画史に深く刻んでいます。

国立西洋美術館は、現在、約400点のカロ版画を所蔵しています。これは、当館の版画コレクションの中核を占めるものであるのみならず、世界的にみても、かなりの規模をもつ貴重なカロ・コレクションであると言えます。ところが、当館では、小企画展示等で一部をご紹介することはあったものの、これまでにカロ作品をまとめて展示する機会はありませんでした。その初の試みである今回の展覧会は、所蔵品のなかから、約220点を選んで展示し、その魅力や美術史上の意義を掘り下げる試みです。それはまた、国内でこれまでに行なわれてきたカロの展覧会としても、最大の規模をもつものになるでしょう。

非日常からの呼び声 平野啓一郎が選ぶ西洋美術の名品

若手世代を代表する作家の平野啓一郎氏は、デビュー作である1998年の『日蝕』以来、西洋文化に対する深い造詣を踏まえた作品を発表してきました。その一方で、字間や余白を工夫するなど、小説の視覚的な要素に関する視覚的な実験も行っています。本展覧会は平野氏をゲストキュレーターとして迎え、彼の芸術観を主に当館所蔵の美術作品によって展覧する試みです。

本展では「非日常からの呼び声」という、平野氏自身が選んだテーマのもとに、氏が自身の美術的・視覚的な感性を展覧会という場で発揮します。非日常の光景あるいは非日常の世界へと誘う光景を描いた作品を、平野氏による解説とともに展示し、観客の皆さんが作品に対する視線を氏と共有することを目的とします。美術作品を通じて平野氏の感性に近づくと同時に、作品の新たな魅力に気づきかけとなれば幸いです。

4月8日(火)の閉館後に両展のプレス内覧会を予定しております。詳細は追ってお知らせいたしますが、「ジャック・カロ」展担当者と平野啓一郎氏による展覧会レクチャーを行いますので、どうぞご参加ください。

ジャック・カロ—リアリズムと奇想の劇場

Jacques Callot : Theater of Realism and Fantasy

— 開催概要 —

- 会 期 2014年4月8日(火)～6月15日(日)
- 会 場 国立西洋美術館 企画展示室
〒110-0007 東京都台東区上野公園7-7
- 開館時間 午前9時30分～午後5時30分(金曜日は午後8時まで)
*入館は閉館の30分前まで
- 休 館 日 月曜日(ただし、5月5日は開館)、5月7日(水)
- 主 催 国立西洋美術館/読売新聞社
- 協 力 西洋美術振興財団

■観覧料

	当 日	団 体
一 般	600 円	400 円
大 学 生	300 円	150 円

- * 団体は20名以上
- * 高校生以下および18歳未満の方は無料
(入館の際に学生証または年齢の証明できるものをご提示ください)
- * 心身に障害のある方および付添者1名は無料(入館の際に障害者手帳をご提示ください)
- * 本展の観覧券で常設展示および「非日常からの呼び声」展も併せてご観覧いただけます。

- 交通案内 JR上野駅(公園口) 徒歩1分
京成電鉄 京成上野駅下車 徒歩7分
東京メトロ銀座線・日比谷線 上野駅下車 徒歩8分
※美術館には駐車場はございません。

- 問い合わせ先 ハローダイヤル 03-5777-8600
国立西洋美術館ホームページ <http://www.nmwa.go.jp/>

- 同時開催
非日常からの呼び声 平野啓一郎が選ぶ西洋美術の名品

ご掲載用写真データの送付について

展覧会広報にご利用いただけるよう、画像データを用意いたしました。ご希望の場合は、添付の画像一覧をご参照のうえ、申込書に必要事項を記入しFAXにてお送りください。

《広報に関するお問い合わせ》
国立西洋美術館 事業担当

TEL 03-3828-5144 / FAX 03-3828-5135(土日祝日を除く、9:30～17:30)

[ジャック・カローリアリズムと奇想の劇場 展覧会の見どころ]

当時の喧騒が今にも聞こえてきそうな祝祭や縁日の図、民衆喜劇コメディア・デラルテの役者たちを描いたもの、対抗宗教改革の潮流を映した諸作品、道化やジブシー、ヨーロッパを暗い影で包んだ戦争に取材したもの、イタリアや 1630 年頃に滞在したパリ、故郷ロレーヌの風景……。多彩な主題を扱ったカロの作品は、ときに現実を鋭く見据え、ときに奇想に満ちた表現をみせ、あるいはこのふたつが入り混じる世界を創りあげています。さらに、カロは試行錯誤を重ね、エッチングの技法に新境地を開いたことでも、版画史上に名前を残しました。この新しい技法から生み出された、ときに明暗を鮮やかに対比し、ときに柔らかな空気の広がりを詩情豊かに描き出す線の表現の美しさは、見るほどに深い驚きをもたらします。

本展覧会では、初期から晩年までのカロの活動の軌跡を、年代と主題というふたつの側面からご紹介します。作品の魅力とその美術史上の意義を掘り下げるとともに、作品をとおして、当時の時代の諸相に向けられたカロのまなざしを探っていくことも、この展覧会の狙いです。

展覧会は、7つの章より構成されます。

第1章 ローマ、そしてフィレンツェへ

1592年、現在はフランスの一部であるロレーヌ公国の首都ナンシーに生まれたカロは、故郷で、ビュランの初歩を学んだのち、1608年頃、当時の芸術の中心地ローマに出ます。ローマでは、版画家で版元でもあったフィリップ・トマサンのもとに弟子入りし、その工房にストックされていた版画の模刻を行いつつ、エングレーヴィングの技法を身につけました。ローマの主要教会の祭壇画や彫刻を模写した連作〈ローマの絵画〉を手掛けたのも、トマサンのもとにいた時期だと思われます。また、カロは、トマサンの工房を訪れる多くの芸術家たちとの出会いにも恵まれました。なかでも、アントニオ・テンペスタとの交流は、重要な意味をもつものだったと言えるでしょう。カロは、おそらくテンペスタの誘いを受けてフィレンツェに移り、1612年2月に行われたスペイン王妃の葬儀の報告書のための版画挿絵制作に参加しますが、これは、以後の制作の中心となるエッチングを本格的に試みる機会をもたらし、さらに、メディチ家と最初の接点をもつきっかけともなったのです。

[第1章の主要作品]

〈ローマの絵画〉連作

《『スペイン王妃マルゲリータ・ダウストリアの葬送の書』のための挿絵》

第2章 メディチ家の版画家

フィレンツェに移ったカロは、当初、建築家で舞台美術家、版画家でもあったジュリオ・パリージに師事しつつ、制作を続けていたようですが、1614年秋、大きな転機を迎えます。ついにその才能を認められ、メディチ家に登用されたのです。宮廷付き版画家となったカロは、前トスカーナ大公フェルディナンド1世の生涯を記録した版画連作を制作するかたわら、宮廷主催の祝祭の記録にもあたりました。アルノ川での水上模擬試合や、宮廷の劇場で上演された舞台に取材した一連の作品からは、メディチ家の華麗なる宮廷文化や都市フィレンツェの活気がありありと伝わってきます。当時イタリアで流行したコメディア・デラルテの役者たちを描いた諸作や、細密描写を駆使した大作《インブルネータの市》を制作したのもこの時期でした。また、フィレンツェで本格的にエッチングを手掛けるようになったカロは、その技法の改良にも取り組みました。そして、エショップという新しい彫版道具を用いて、肥瘦のあるエングレーヴィングの刻線に似た線を刻む方法や、防蝕剤としてのワニスを硬めに調合することで、銅版を長持ちさせ、かつ、シャープで明瞭な線を得るやり方を考案したほか、

太く濃い線から柔らかく繊細な線まで多様な線を表す手法を発展させました。フィレンツェ時代末期の1620年頃に制作された《狩り》や前述の《インプルネータの市》には、その効果の遺憾ない発揮をみることができます。

[第2章の主要作品]

《アルノ川の祝祭(扇)》※画像①

《二人のザンニ》※画像②

《インプルネータの市》

第3章 アウトサイダーたち

フィレンツェ時代より、カロの眼は、しばしば社会の周縁部にいた人々にも向けられました。こうして生み出されたのが、ゴッボたち(ゴッボ/gobbo とはイタリア語で、並みはずれて背丈の低い人、および背中が曲がった人の意)の姿をカリカチュア風に描いた〈小さな道化たち〉連作、正当な資格がないにもかかわらず物乞いをする者たちに対して、当時の社会が抱いていた警戒心を反映する〈乞食〉連作、ロマたちの日常を描いた〈ジプシー〉連作などです。これらの“アウトサイダーたち”は、近世ヨーロッパにおいて社会の周縁部に追いやられつつも、しばしば強い関心を向けられた存在でした。カロの作品は、そうした当時の社会のまなざしを如実に反映したものと言えるでしょう。

[第3章の主要作品]

〈小さな道化たち〉連作 ※画像③

〈ジプシー〉連作 ※画像④

第4章 ロレーヌの宮廷

1621年のトスカーナ大公コジモ2世・デ・メディチが歿したことにより、フィレンツェでの庇護者を失ったカロは、故郷ロレーヌ公国のナンシーに戻ります。第4章でご紹介するのは、ロレーヌ宮殿の庭園や、公国の目抜き通りを会場に行なわれる槍試合の様子を描いたもの、そして、1627年にロレーヌ公が主催した華やかな槍試合の記録などです。ロレーヌ公国は、1630年以降、繰り返しペストの流行に見舞われ、フランス軍の侵攻も受けることになります。一連の作品からは、苦難の時代を経験する直前のロレーヌ公国の繁栄を見て取ることができるでしょう。

[第4章の主要作品]

《ナンシーの宮殿の庭園》※画像⑤

〈槍試合〉連作 ※画像⑥

第5章 宗教

カロが生涯に制作した作品の中で最も多くを占めるのは、宗教主題の作品です。彼が活動した17世紀前半は、対抗宗教改革運動が大きな盛り上がりを見せた時代でした。とくに、ローマと密接な関係にあったロレーヌ公国では、宗教的情熱が熱狂的に高まったことが知られています。この状況を受けて、帰郷後のカロは、おびただしい数のキリスト教主題の作品を制作しました。第5章は、一部フィレンツェ滞在期の作品も含めた、宗教主題の版画から構成されます。そのなかには、ロレーヌ地方で人気を博した聖セバスティアヌスの殉教図や、当時の聖ヨセフ信仰の興隆を反映し、聖ヨセフがかいがかいしく少年イエスの世話をする様子を描いた聖家族図もあります。また、奇怪な

悪魔たちが跋扈する、不気味な迫りに満ちた最晩年の大作《聖アントニウスの誘惑(第二作)》も、この章でご紹介します。

[第5章の主要作品]

- 《聖セバスティアヌスの殉教》※画像⑦
- 《日本二十三聖人の殉教》
- 《食卓の聖家族》※画像⑧
- 《聖アントニウスの誘惑(第二作)》※画像⑨

第6章 戦争

戦争が常に身近なものであった17世紀前半ヨーロッパの世相を映すように、カロは、戦争や兵士の日常に取材した作品をしばしば制作しました。1620年代後半には、スペインが派遣したネーデルラント総督よりブレダ包囲戦の記録版画を受注しています。この作品は高い評価を受け、のちに《アヴリアーナの戦い》等、戦争の記録版画的注文を相次いで得ることになりました。一方、1633年には、戦中は各地で蛮勇と狼藉の限りを尽くし、いざ戦争が終わると、苛烈な報いを受ける傭兵たちの運命の浮き沈みを描いた〈戦争の悲惨(大)〉連作も発表しています。さらに、1635年には、兵士たちの教練を小さな画面に描いた連作も刊行されました。一連の作品をとおして、カロが戦争に向けたまなざしを探ることが本章の目的です。

[第6章の主要作品]

- 《ブレダの攻略》
- 〈戦争の悲惨(大)〉連作 ※画像⑩
- 〈教練〉連作

第7章 風景

カロは、さほどの数ではありませんが、いくつかのきわめて魅力的な風景版画を残しました。〈様々なイタリア風景〉では、若い頃に過ごしたイタリアの風景を11点連作に描いています。一方、《グジュイエの5月》には、故郷ローヌ地方の小村グジュイエの晴れやかな春の日が、詩情豊かに表されています。そして1630年頃のパリ滞在からは、セーヌ川付近の晴れと曇の表情をパノラマ風にとらえた〈パリの景観〉連作が生み出されました。太さや濃さの変化に満ちた線の表現を活かして、陰影を鮮やかに対比し、やわらかな空気の間延びや空間の奥行きを自在に演出してみせるカロは、風景表現の名手でもあったのです。

[第7章の主要作品]

- 〈様々なイタリア風景〉連作
- 《グジュイエの5月》
- 〈パリの景観〉連作 画像⑪

ジャック・カローリアリズムと奇想の劇場

— 関連プログラムのご案内 —

本展開催中、下記プログラムを実施しますので、併せてご案内いたします。

講演会

2014年4月26日(土)14:00~15:30

中田明日佳(国立西洋美術館研究員)

「カロ作品に映された17世紀前半のヨーロッパ」

2014年5月31日(土)14:00~15:30

栗田秀法(名古屋大学大学院教授)

「バロック美術のなかのジャック・カロ」

参加方法

会場:国立西洋美術館講堂(地下2階)

定員:各回先着140名(聴講無料、ただし聴講券と本展の観覧券が必要です。)

参加方法:当日12:00より、館内インフォメーションにて、本展の観覧券をお持ちの方一人につき一枚聴講券を配布します。会場へは開演の30分前からご入場いただけます(自由席)。

スライドトーク

展覧会の見どころやおもな作品について、スライドを使って解説をします。

日時:2014年4月11日(金)、4月25日(金)、5月16日(金)、5月30日(金)

各回18:00から約30分

会場:国立西洋美術館講堂

解説:中田明日佳(国立西洋美術館研究員)

定員:各回先着140名(参加無料。ただし、本展の観覧券が必要です。)

※直接講堂にお越しください(開場時間は各日とも開演の30分前)。

コンサート

展覧会のおもな作品に基づきながら、カロの作品や時代を音楽の側面から読み解くレクチャー・コンサートです。

日時:2014年5月22日(木)18:00~20:00

会場:国立西洋美術館企画展示ロビー

演奏:景山梨乃(ハープ)

レクチャー:瀧井敬子(東京藝術大学客員教授)

定員:100名

料金:1500円 ※チケットは4月22日(火)開館時間より、当館インフォメーションにて販売します。

【景山梨乃 プロフィール】

2008年東京芸術大学入学、2009年よりパリエコールノルマル音楽院に在籍。2011年、同音楽院最高ディプロムを審査員満場一致と特別評価を受け取得。現在ベルリンフィル・カラヤンアカデミーに所属すると同時に、ベルリン芸術大学にて学ぶ。またオーケストラ奏者としてベルリンフィルハーモニー管弦楽団、ベルリンドイツオペラ、ハンブルク歌劇場などで客演。

※各プログラムの内容等は急きょ変更となる場合があります。詳細、最新情報は国立西洋美術館ホームページでご確認ください。

<同時開催>

非日常からの呼び声

平野啓一郎が選ぶ西洋美術の名品

Voices Calling from the Unusual: Hirano Keiichiro's Selection of Western Art Masterpieces

- 会 期 2014年4月8日(火)～6月15日(日)
- 会 場 国立西洋美術館 企画展示室
〒110-0007 東京都台東区上野公園7-7
- 開館時間 午前9時30分～午後5時30分(金曜日は午後8時まで)
*入館は閉館の30分前まで
- 休 館 日 月曜日(ただし、5月5日は開館)、5月7日(水)
- 主 催 国立西洋美術館/読売新聞社
- 協 力 西洋美術振興財団

■観 覧 料

	当 日	団 体
一 般	600 円	400 円
大 学 生	300 円	150 円

* 団体は20名以上

* 高校生以下および18歳未満の方は無料 (入館の際に学生証または年齢の証明できるものをご提示ください)

* 心身に障害のある方および付添者1名は無料(入館の際に障害者手帳をご提示ください)

* 本展の観覧券で常設展示および「ジャック・カロ」展も併せてご観覧いただけます。

- 交通案内 JR上野駅(公園口) 徒歩1分
京成電鉄 京成上野駅下車 徒歩7分
東京メトロ銀座線・日比谷線 上野駅下車 徒歩8分
※美術館には駐車場はございません。
- 問い合わせ先 ハローダイヤル 03-5777-8600
国立西洋美術館ホームページ <http://www.nmwa.go.jp/>

【関連プログラム】

講演会

2014年5月24日(土)14:00～15:30

平野啓一郎

「非日常からの呼び声」

参加方法

会 場:国立西洋美術館講堂(地下2階)

定 員:先着140名(聴講無料、ただし聴講券と本展の観覧券が必要です。)

当日12:00より、館内インフォメーションにて、本展の観覧券をお持ちの方お一人につき一枚聴講券を配布します。会場へは開演の30分前からご入場いただけます(自由席)。

ご掲載用写真データの送付について

展覧会広報にご利用いただけるよう、画像データを用意いたしました。ご希望の場合は、添付の画像一覧をご参照のうえ、申込書に必要事項を記入しFAXにてお送りください。

《広報に関するお問い合わせ》

国立西洋美術館 事業担当

TEL 03-3828-5144 / FAX 03-3828-5135(土日祝日を除く、9:30～17:30)

主な出品作品(広報用写真データ一覧)

①～⑪「ジャック・カロ」展 出品作品

⑫～⑮「非日常からの呼び声」展 出品作品

①ジャック・カロ

《アルノ川の祝祭(扇)》



②ジャック・カロ

《二人のザンニ》



③ジャック・カロ

《丈の高い帽子を被る下腹の出た道化》
〈小さな道化たち〉連作より



④ジャック・カロ

《ジプシー達の宴》〈ジプシー〉連作より



⑤ジャック・カロ

《ナンシーの宮殿の庭園》



⑥ジャック・カロ

《ド・ヴロングルール殿、ティヨン殿、マリモン殿の入場》
〈槍試合〉連作より



⑦ジャック・カロ

《聖セバスティアヌスの殉教》



⑧ジャック・カロ

《食卓の聖家族》



⑨ジャック・カロ

《聖アントニウスの誘惑(第二作)》



⑩ ジャック・カロ

《絞首刑》〈戦争の悲惨(大)〉連作より



⑪ ジャック・カロ

《ポン・ヌフの見える光景》〈パリの景観〉連作より



⑫ ヴィルヘルム・ハンマースホイ

《ピアノを弾く妻イダのいる室内》



⑬ オルドーミーエ

《マグダラのマリア》



⑭ ギュスターヴ・クールベ

《波》



⑮ フランシスコ・デ・ゴヤ

《飛翔法》〈妄〉連作より



ジャック・カローリアリズムと奇想の劇場

非日常からの呼び声 平野啓一郎が選ぶ西洋美術の名品

広報用写真データ申込書 事業担当 行 FAX 03-3828-5135

展覧会の作品写真を希望される方は、本用紙に必要事項をご記入の上、FAXでお申し込みください。
画像データにてお送りいたします。

- 画像のご使用は展覧会をご紹介いただける場合に限りです。それ以外の目的でのご使用はご遠慮ください。
- 画像データの「作品」は必ず全図で使用してください。作品部分の改変・部分使用・文字のせは出来ません。
展覧会名、会期、会場、《作品名》、作者名、所蔵館、クレジットは必ずご記載ください。
- お手数ですが、確認のため、必ずゲラの段階でメールまたはFAXで当館宛にお送りいただきますようお願いいたします。
- Web媒体の掲載における画像サイズ及び精度は、名刺大、GIF形式(256色)、72dpi、50kbyte以下で掲載願います。
- 展覧会情報掲載の場合は、問い合わせ先番号(ハローダイヤル:03-5777-8600)を明記いただきますようお願いいたします。
- 作品写真1点以上をご掲載の上、展覧会をご紹介いただける場合に、読者プレゼント招待券(10組20枚)を提供いたします。
- 掲載後、掲載紙・誌を1部、下記宛てにお送りください。

【送付先:〒110-0007 東京都台東区上野公園7-7 国立西洋美術館 事業担当宛】

- お問い合わせ先 国立西洋美術館 事業担当

電話:03-3828-5144 FAX:03-3828-5135 E-mail:jigy@nmwa.go.jp (土日祝日を除く、9:30~17:30)

貴媒体名	
貴社名/部署	
ご担当者名	
ご連絡先	TEL: _____ FAX: _____
ご住所	〒 _____
メールアドレス(データ送付先)	
掲載・放映予定日/コーナー名	
読者プレゼント(招待券)	<input type="checkbox"/> 希望する
今後、展覧会の案内等をデータ送付先にご記入いただいたメールアドレスにお送りしてもよろしいでしょうか。 <input type="checkbox"/> 可	

*ご記入いただいた個人情報は、ご了解いただいた場合を除き、展覧会の広報用写真貸出の目的のみに使用し、それ以外の用途には使用いたしません。

チェック	作品名	作者	制作年	素材(サイズ)	※
<input type="checkbox"/> ①	アルノ川の祝祭(扇)	ジャック・カロ	1619年	エッチング、 エングレーヴィング	A
<input type="checkbox"/> ②	二人のザンニ	ジャック・カロ	1616年頃	エッチング	A
<input type="checkbox"/> ③	《丈の高い帽子を被る下腹の出た道化》 《小さな道化たち》連作より	ジャック・カロ	—	エッチング、 エングレーヴィング	A
<input type="checkbox"/> ④	《ジブシー達の宴》《ジブシー》連作より	ジャック・カロ	—	エッチング、 エングレーヴィング	A
<input type="checkbox"/> ⑤	ナンシーの宮殿の庭園	ジャック・カロ	1625年	エッチング	A
<input type="checkbox"/> ⑥	《ド・ヴロンクール殿、ティヨン殿、マリモン殿の入場》《槍試合》連作より	ジャック・カロ	1627年出版	エッチング	A
<input type="checkbox"/> ⑦	聖セバスティアヌスの殉教	ジャック・カロ	—	エッチング、 エングレーヴィング	A
<input type="checkbox"/> ⑧	食卓の聖家族	ジャック・カロ	—	エッチング、 エングレーヴィング	A
<input type="checkbox"/> ⑨	聖アントニウスの誘惑(第二作)	ジャック・カロ	1635年	エッチング	A
<input type="checkbox"/> ⑩	《絞首刑》《戦争の悲惨(大)》連作より	ジャック・カロ	1633年出版	エッチング	A
<input type="checkbox"/> ⑪	《ボン・ヌフの見える光景》《パリの景観》連作より	ジャック・カロ	1629年頃	エッチング	A
<input type="checkbox"/> ⑫	ピアノを弾く妻イダのいる室内	ヴィルヘルム・ハンマースホイ	1910年	油彩、カンヴァス	A
<input type="checkbox"/> ⑬	マグダラのマリア	オノレ・ドーミエ	1849-50年頃	油彩、カンヴァス	A
<input type="checkbox"/> ⑭	波	ギュスターヴ・クールベ	1870年頃	油彩、カンヴァス	B
<input type="checkbox"/> ⑮	《飛翔法》《妄》連作より	フランシスコ・デ・ゴヤ	1815年頃 (1864年初版)	エッチング、アクアティ ント、ドライポイント(?)	A

※①~⑪「ジャック・カロ」展出品作品 ⑫~⑮「非日常からの呼び声」展出品作品

※所蔵/クレジット A:国立西洋美術館 B:国立西洋美術館 松方コレクション